

教育委員会だより vol.40

◆問い合わせ 町学校教育課総務係
(☎82-3111内線313)または町生
涯学習課(☎82-3111内線621)へ。

天空海闊

—空、とこしえに碧くして 海、穏やかにどこまでも—

いのちと心を育む運動 推進強化月間(7月~9月)

山田町いのちと心
を育む連絡協議会で
は、7月から9月を
「山田町いのちと心
を育む運動」の推進
強化月間として、児
童・生徒による生活
改善標語の作成や町

内駅舎周辺などで啓発のぼりの
掲揚に取り組みます。今年度か
らは、啓発のぼりを一新し、町
内の児童・生徒を「やまだの子」
として地域ぐるみで見守り、育
んでいこうという意識を高めて
いきます。

思ひやりのあいさつが、子
どもたちの生活を見守り
心を育てる思いやりのあいさつを



子どもたちの生活を見守り

心を育てる思いやりのあいさつを

本町出身ピアノ



湊 義雄さん
(飯岡・72)

山田高校ボート部への入部をきっかけにボート競技を始める。ボート競技日本代表として、23歳の時にミュンヘンオリンピック(昭和47年)に出場。現在は、山田町体育協会会長を務める。

■オリ・パラ大会出場の思い出

東京2020 オリ・パラ大会 コーナー④

東京2020オリンピック・パラリンピック大会を盛り上げるための事業やイベントなどを7回に分けて紹介します。今回は、本町出身のオリンピアンの一人である湊義雄さんに、オリンピックの思い出などを伺いました。

実業団からの誘いもありませんが、地方で活動する人間でも結果が残せることが示したいと思い、実業団には所属せずに町内で働きながら練習をしていました。遠方の大会に出場するため、全国各地のボート仲間に試合会場までボートを運んでもらったり、家に泊まらせもらつたりと、たくさんの人助けられました。どんな時でも見てくれる人、応援してくれる人がいると感じました。

ミュンヘンオリンピックの試合では、ボートを2人で漕ぐダブルスカル競技に、伊藤次男選手とともに出場

も勉強でも自分が一生懸命やらないと見つけられません。子どもたちからいろいろなことを

■町民の皆さんへメッセージ

自分にとって「自分には無かつたもの」「自分が気づかなかったこと」に出会ったのが、ボートでした。誰にでも「自分に合うもの」があります。「自分に合うもの」は、スポーツで

も勉強でも自分が一生懸命やらないと見つけられません。子どもたちを見守り、温かいあいさつで競い、多くの選手は最初の500メートルが一番早いですが、自分たちは、最後の500メートルで追いで勝つことを強みにしていました。しかしわざわざに及ばず、ですが「もつとやれば何とかなる」と思いました。

鯨峰爽やかに

しました。ボート競技は2千㍍で競い、多くの選手は最初の500メートルが一番早いですが、自分たちは、最後の500メートルで追いで勝つことを強みにしていました。試合直後は悔しかったですが、「もつとやれば何とかなる」と思いました。

町内小・中学校で給食が始まつて一年が過ぎました。町のホームページには献立表や給食の写真を載せていてます。どうぞご覧になつてください▼私が子どもの頃の昼食は、家庭により①弁当を持っていく②地元の商店でパンを買う③家に帰つて食べる——と3つの方法に分かれています▼小学生時代のある日、お昼休みを目前にして突然テスト用紙が配られたことがあります。到底終わらない問題量です。案の定4時間目のチャイムが鳴つても終わらず、提出した時にはお昼時間をだいぶ過ぎていました。走つて家に帰り、大急ぎでお昼ご飯を詰め込んで戻つたことを半世紀経つた今でも覚えています。食べ物の思い出が、そのときの思いが根底にあるのかもしれません。

教育長 佐々木 茂人